

新年のごあいさつ



尾張旭市長

森 和 実

新年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい希望に満ちた新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。日頃から、市政運営に対しご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、新型コロナウイルス感染症が拡大・長期化する中、感染症対策に取り組みながら将来の更なる発展を見据え、各種事業に取り組んでまいりました。

子育て支援では、保育園や小中学校など子育て施設の環境整備に加え、高校生世代の通院医療費を10月から無償化いたしました。魅力あるまちづくりに欠かすことができない都市基盤整備では、印場駅のバリアフリー化に向けた工事に着手し、また、三郷駅周辺整備の市街地再開発準備組合を支援するとともに事業化に向けて取り組みを推進いたしました。

さらに、コロナ禍で外出する機会が減るなどした市民の皆さまの心と体の健康を守るため、「元気まる測定」をリニューアルし、そし

て、尾張旭市の長期的な指針となる第六次総合計画策定に向けて市民ワークショップを開催するなど、市民の皆さまを交えながら取り組みを進めてまいりました。

さて、このたび私は、2月2日の任期満了をもちまして尾張旭市長の職を退任することになりました。

平成31年2月に就任以来、その責任の大きさを痛感しながら、「こどもは宝、健康は宝、幸せづくりは宝」に向けた施策を展開し、オンリーワンのまちづくりを進めてまいりました。このようなまちづくりを進めてこられたのも、多くの皆さまの温かいご支援とご協力があったからこそであり、心から感謝申し上げます。

退任後は、20年以上にわたり市政に携わってきた経験を生かし、一市民として、微力ではございますが尾張旭市のために尽力してまいりたいと思っております。

結びにあたり、本年が市民の皆さまにとって健康で素晴らしい年となりますよう心からお祈り申し上げ、年頭のごあいさつとさせていただきます。

尾張旭市議会議員

篠田 一彦



明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、新春を清々しい気持ちでお迎えのこととお喜び申し上げます。平素は、市議会に対して多大なるご支援とご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、コロナ禍における私たちのライフスタイルやワークスタイルの変化により、キャッシュレス決済やリモートワークなどが浸透したことによる新たな生活様式が定着し、デジタル化が大きく前進してきた年でもありました。

市議会では、動画配信による議会報告会、オンライン研修会、本会議におけるタブレット端末の試行運用などデジタル化を進めてまいりました。本会議でタブレット端末を利用した会議システムの導入を行い、昨年12月議会での試行運用、さらに本年3月議会でも本格運用をする予定で、デジタル化による議会運営の活性化や効率化を図るだけでなく、各種書類のペーパーレス化による環境保全やコスト意識への配慮も進めているところです。

また、市議会にとって、開かれた議会に向けた取り組みが加速した1年でもございました。議会基本条例に基づく多様な意見交換の場として、旭野高等学校の生徒が議員となって行った「高校生議会」や「名古屋産業大学の学生との意見交換会」の開催、連合自治会との意見交換会の取り組みを行うことで、さまざまな世代の方々の市政に対する意見や考えを幅広く伺いました。

そして、エネルギーや食料品の価格高騰の影響を受け、国内外とも激動の時代の中、先が見通せない状況で、皆さまから市政や議会に対する意見や要望などの貴重な声も多くいただきました。この想いを市政に反映させるため、市民の皆さまに寄り添いながら引き続き議会・議員の活動に取り組んでまいります。

どうか今年も相変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆さまにとって、笑顔に満ち溢れた幸多き年となりますよう心より祈念申し上げ、新年のあいさつとさせていただきます。